

自治体の課題、現状

- ・当県は全国同様に、少子化に伴い生徒数が減少し、生徒のニーズに対応できる部活動が少なくなっている現状である。
- ・宮崎県教職員時間外業務時間の状況（令和5年度）においても、時間外業務時間45時間以上が、小学校が18.1%に比べ、中学校が46.2%であった。
- ・部活動改革に関する協議会を開催する、または、開催予定である市町村は23市町村（88.4%）であり、改革に対する意識の変化が見られるようになってきた（令和6年10月調査）。
- ・地域移行を進める上での課題は、市町村の意識改革が第一であり、子どものニーズに応えるためにどのようにしてスポーツの機会を確保すればよいか、ということを念頭に置いて、取り組んでいく必要がある。

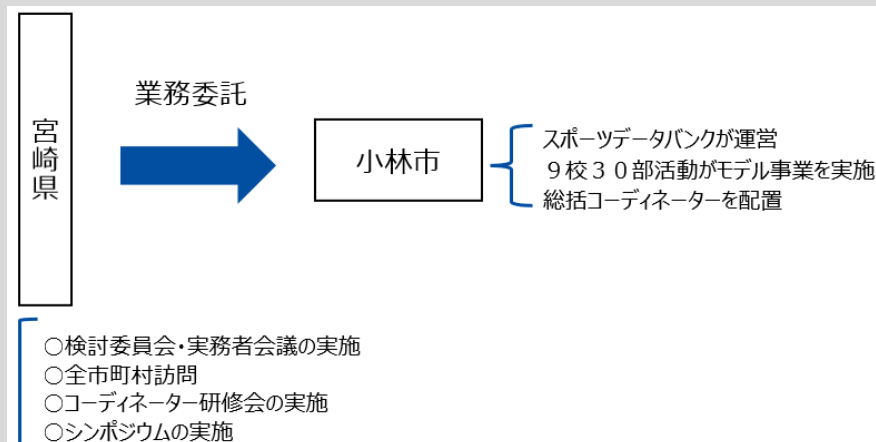
取組の概要

- ・全市町村を訪問し、地域の実態等の情報交換を実施したり、市町村担当者向けにコーディネーター研修会を実施したりした。
- ・部活動改革に関する理解や周知を目的に、県全体でシンポジウムを開催した。
- ・地域クラブ活動の指導者に向けたオンデマンド研修プログラムを実施した。
- ・宮崎県地域クラブ活動等指導者人材バンク（クラサポひなた）のフォーマットを作成し、募集のチラシを配付した。
- ・令和7年度までの県の方向性（ロードマップ）を作成し、全市町村へ周知を行い、改革推進期間最終年のゴールイメージを共有した。

地域移行関連の取組、成果

- ・県内全市町村の担当者が参加した研修会で活用するための状況調査を行い、それをまとめた冊子をもとにグループ協議を実施した。各市町村の地域連携・地域移行の取組、現状を情報共有することができた。
- ・市町村を越えた拠点校方式の部活動が増えてきており、広域的な連携が広がっている。
- ・シンポジウム終了後のアンケートでは57名の回答があり、「とても参考になった」「ある程度参考になった」の回答が52名（**91.2%**）であった。
- ・国や県の動向を説明してきたことで、令和8年度を目標に地域移行に取り組んでいる市町村が複数あり、これらを令和7年度以降に「ひなたモデル」として他市町村へ紹介できるように準備していきたい。

運営体制図



自治体の課題、現状

中学校部活動の地域移行においては、主体となる生徒やその保護者、そして指導者の受け皿となる地域の理解や協力が不可欠であるため、事業の趣旨・目的、具体的な方策等を周知することが必要である。

市内全体で地域クラブ活動を実施する場合の地域指導者の確保、地域指導者と部活動や運営団体と学校をマッチングする仕組み、指導者への謝礼金、参加者の保険料といった経費負担、学校以外における練習時の移動手段の確保等の課題整理が必要である。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	9校	全生徒数	1,122人
域内の部活動数	44部	実施した地域クラブ数	25クラブ
全体の指導者数	37人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	小林市スポーツ協会		
主な種目	軟式野球、陸上、バレーボール、ソフトテニス、ハンドバール、サッカー		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3.4人/クラブ 2年：5.4人/クラブ 1年：4.9人/クラブ
参加会費	なし	主な活動場所	各中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・地域クラブ活動推進協議会を中心に、地域移行の仕組みの構築やこれまでの試行における成果や課題等を協議し、「小林市地域クラブ活動の在り方に関する方針」を策定した。
- ・地域クラブ活動においては、指導者間による調整により、学校内での男女間の合同練習や学校間でのモデル校同士の合同練習、小・中・高異校種合同の練習を行った。
- ・地域クラブ活動移行のさらなる推進や生徒や保護者へ理解促進を図るため、生徒及び保護者、部活動顧問に対してアンケート調査を行った。

運営体制図

